



商事經營學トハ何ゾヤ

上田, 貞次郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 7(1):1-22

(Issue Date)

1909-07

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051409>



經濟學
商業學

國民經濟雜誌

第七卷

第壹號

(明治四十二年
七月一日發行)

論

說

商事經營學トハ何ゾヤ

東京高等商業學校教授

商學士 上田貞次郎

商事經營學ノ性質ニ就テ多數ノ學者及實際家ヨリ質問ヲ受クルニ付キ此ニ余ガ私見ノ大要ヲ述ベテ江湖ノ批評ヲ請ハントス。或實際家ハ商事經營學トイフ名稱ノ如何ニモ御大層ナルヲ訝リテ左程ノ學問ガ現今ノ商業界ノ爲メニ用ヲ爲シ得ルヤ否ヤヲ疑ヒタリ。又或學者ハ商事經營ニ關スル研究ガ果シテ一科ノ學トシテ存在シ得ルモノナルヤ否ヤヲ質サレタリ。此二ノ疑問ハ共ニ實際家トシテ若シクハ學者トシテ當然生ズベキ所ノモノナルベシ。本文ハ勿論之ニ對シテ詳細ナル

解答ヲ與フベキモ壁頭先ヅ簡單ニ余ノ信ズル所ヲ一言シ置カントス。思フニ商事經營學トハ成程御大層ナル名ナリ。新奇ナル語ナリ。然レドモ其實物ハ御大層ニモアラズ、亦必ズシモ新奇ナリト稱スルニ足ラズ。學問トシテハ看板ホドニ立派ナル組織ヲ有スルニ至ラザレドモ商業教育ノ手段トシテハ頗ル有益ナルベキヲ疑ハズ。商事經營學ハ街學的ナル机上ノ空論ニアラズシテ商業教育家ガ多年ノ經驗上ヨリ割出シテ其研究ノ必要ヲ認メタル所ノモノナリ。余ハ最初ニ商業教育上斯學ノ必要ナル所以ヲ説明シ然ル後ソノ學問上ノ位置ニ及ブベシ

一 商事經營學ノ必要

商業教育上斯學ノ必要ナルコトヲ説明スルニハ本邦商業教育ノ中心タル東京高等商業學校ニ於ケル商業學科ノ現狀ヲ述ブルニ如カズ。抑一橋ノ商業學ハ商業通論、賣買、銀行、保險、海運、鐵道、取引所等ヨリ成リ其目的ハ最初ハ此等ノ業務ニ於テ現在行ハル、所ノ個々ノ取引ノ實務手續ヲ述ブルニアリキ。然ルニ其後吾人ハ此實務手續ノ研究ニ満足セズシテ大ニ理論的方面ニ重キヲ置クコト、ナリ、右ニ述ベタル銀行、保險、海運、鐵道等ノ學科モ著シク經濟學者ノ研究ノ結果ヲ加味セラレ

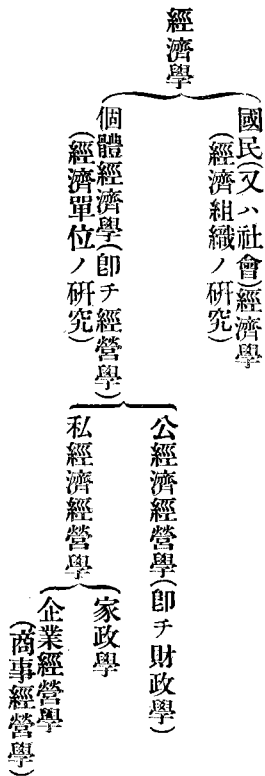
尙別ニ商業政策ノ一科ヲ置キテ獨逸ノ經濟學說ヲ紹介スルニ至レリ。此ノ如クニシテ一橋ノ商業學科ハ現今實務及政策ノ二面ヲ具ヘ之ヲ十年前ニ比スレバ著大ナル進歩ヲナセリトイフベシ。然レドモ吾人ハ到底現狀ニ満足スルコト能ハズ。蓋在來ノ商業學ハ個々ノ商取引ノ實務手續ニ關スル研究ヲナスガ故ニ手代事務員ノ執掌スベキ日常ノ細務ヲ執リ又ハ其執務ノ組織ヲ案出スルノ準備トナレドモ企業者トシテ事業經營ノ大本ヲ鹽梅スル所ノ頭腦ヲ訓練スルニ適セズ。又經濟學及經濟政策ハ商業ガ國民經濟組織ノ裡ニ活動スル有様ヲ論ジ且國家ガ如何ニシテ其害ヲ防ギ其利ヲ進ムベキカノ問題ヲ解釋スルモノナレバ商工業者ニ取リテ頗ル有益ナル智識ヲ供給スルニハ相違ナケレドモ商工業其者ノ内部ノ經營施設ニ對シテハ直接ノ關係ヲ有スルニアラズ。一言ニシテ之ヲ蔽ヘバ經濟學ノ廣大ナルト商業實務ノ精細ナルトノ間ニ在テ兩者ノ連絡ヲ保ツ所ノ或者ヲ要ス。此或者ハ即チ企業家ノ立場ヨリ私經濟ノ利害ヲ標準トシテ商工業ノ經營法ヲ論ズル所ノモノナルヲ要ス。此思想ハ既ニ久シク一橋ノ學者ヲ動カシ、現ニ銀行、鐵道、保險等ノ諸學科ニアリテハ從來ヨリ存スル實務及政策ノ二面ニ加フルニ經營ノ一面ヲ

以テセルコト明カナリ。今此ニ商事經營學ノ一科ヲ立テントスルハ畢竟此方面ニ於テ商業學科ノ一大發展ヲナサシメ、恰カモ財政學ガ國家ノ經濟ヲ論ズルガ如ク各種商的企業ノ經營ヲ論ゼシメント欲スルナリ。商業教育ヲ終リテ商業界ニ赴クモノハ最初ハ簿記商業算術商業文竝ニ商業實務ノ智識ヲ以テ手代事務員ノ仕事ニ從フベシ。然レドモ進ンデ支配人トナリ、支店長トナリ、工場長トナルニ及ビテハ外部ニ向テハ市場ノ形勢ヲ察シ、市價ノ變動ヲ豫測シテ需給ノ均勢ヲ維持スルノ材能ヲ要シ、内部ニ於テハ自己ノ事業ノ計畫組織管理改良ヲナシ且資金ノ調達融通ヲ掌ルノ技倆ナカルベカラズ。此ノ如キ才能技倆ハ本來實地經驗ノ裡ニ養ハルベキモノナリト雖學問ガ之ニ對シテ何等ノ貢獻ヲ爲シ能ハズトハ信ズルコト能ハズ。此ノ如キ頭腦ヲ養フノ準備トシテ商業實務ハアマリニ機械的ナリ、經濟學ハアマリニ茫漠タリトセバ此ニ一個ノ新學科ヲ作りテ廣ク事業家ノ經驗シタル事實ヲ蒐集シ、分類シ、論究スルノ必要アルニアラズヤ。固ヨリ此ノ如キ學科ヲ修メタレバトテ必ズ事業經營ノ才ヲ得ベシトハイハズ。新タニ實業界ニ投ズル所ノ有爲ノ青年ヲシテ簿書堆裡ニ鞅掌シナガラ尙簿記帳以外「タイプライター」以上ニ眼ヲ

走セテ事業大體ノ經營施設ヲ觀察判斷スルノ趣味ト智力トヲ養ハシムルハ即チ是高等商業教育ノ本旨ニシテ又育英ノ機關ガ近世式大事業ノ發展ニ順應スル所以ナリト信ズルナリ。

二 商事經營學ノ學問上ノ地位

商事經營學ハ實業界及商業教育ノ發展ニ伴フ實際ノ要求ニ應ジテ發育シタルモノナレドモ學問系統ノ上ニ於テモ亦趣味アル地位ヲ占ムルコトヲ信ズ。但シ吾人ハ現今尙幼稚ナル斯學ノ爲メニ材料ヲ蒐集シ、又ハ部分的研究ヲナスノ急務タルヲ信ズルガ故ニ學問系統論トシテハ簡單ニ左ノ一表ヲ以テ答フルニ止メントス。



普通ノ經濟學及經濟政策ハ經濟組織ノ研究ナリ。即チ廣ク社會ノ經濟ヲ論ズルモノナリ。此經濟組織ノ内ニ活動スル所ノ個々ノ經濟單位ノ研究ハ之ヲ特殊ノ部門ニ讓ラザルベカラズ。現代ノ經濟組織ノ要素ハシユモラー教授ノ言ノ如ク家族國家及自治體竝ニ企業ノ三者ナリ。而シテ家族經濟ノ研究ヲナスベキ家政學ハ其昔大家族制ノ行ハレタルギリシアローマノ時代ニハ大ニ學者ノ注意ヲ惹キタリトイフ。又中世獨逸ニ發達シタル官府學(カメラルウィッセンシャフト)ハ頗ル廣汎ナル學問ニシテ今ノ財政學、經濟政策ニ關スル事項ト共ニ封建諸侯ノ財產管理法ヲモ論ジタリトイヘバ是亦事實ニ於テ一種ノ家政學タリシナリ。但シ過去數世紀ニ亘ル社會史上ノ變遷ハ家族經濟ノ規模ヲ益小ナラシメタルガ故ニ其學問モ亦自然發育セズシテ止ミタルノミ。然レドモ國家及企業ノ職分ハ家族經濟ノ縮少スルト反比例ニ増大シタルガ故ニ此兩者ノ經濟ヲ論ズル所ノ學問ハ大ニ發達セザルベカラズ。現ニ國家經濟ニ關シテハ財政學ノアルアリ。企業ニ關スル統一的研究ハ商事經營學ヲ以テ嚆矢トナスト雖特殊ノ事業ニ就テハ既ニ特殊ノ事情ノ下ニ整頓シタル研究ノ結果アリ。其最モ著シキモノ、一ハ前ニ述べタル獨逸ノ官府學ノ

内ヨリ分化シタル農業經營學ニシテ大農場ノ經營管理ヲ掌ルモノハ此學問ノ益ヲ享クルコト少カラズ。尙他ノ一例ハ英國派經濟學ノ内ニ嚴然トシテ一部門ノ地位ヲ占ムル所ノ銀行論ナリ。所謂銀行論ハ實務又ハ技術ノ研究ニアラズ。サリトテ銀行政策ノ如ク國民經濟的立場ノミヨリ論ズルニモアラズ。其主トスル所ハ營利事業タル銀行業ノ經營ニ關スル根本原理ヲ説明スルモノニシテ前掲ノ表ニ於テハ私經濟經營學ノ一派ニ屬シ、其思想ニ於テ明カニ我商事經營學ノ先驅ナリトス。カクテ銀行論ハ十九世紀ノ中葉英國ニ於テ多數ノ株式銀行ヲ生ジ、教育アル有爲ノ人材ヲ驅テ其經營ニ任ゼシメタル時ニ完成セシガ其後鐵道業ノ大規模ヲ以テ經營セラル、ニ及ビテ鐵道經營ノ研究モ亦著シク進歩シタリ。今ヤ世界經濟ノ大發展ト共ニ商工百般ノ事業皆廣大複雑ナル組織ヲ有シ、此方面ニ天下ノ俊秀ヲ集ムルノ必要アル時代ニ於テ商事經營學ノ起ラントスルハ寧ロ當然ノ順序ナリトイハザルヲ得ズ。

三 歐米ニ於ケル斯學研究ノ現狀

我日本ニ於テ商事經營學ノ名ヲ生ジタルハ恐ラクハ獨逸語ノ「ハンデルスベト

リーブスレトレヲ譯シタルナラン。璣ニ伯林及ケルンノ商業大學校ニ於テ同名ノ講座ヲ開キツ、アリ。此等ノ講座ノ擔當者ハ多クハ實業界及教育界ノ雙方ニ經驗ヲ有シ簿記及商業實務ニ精通セル人々ニシテ其研究ノ方針ハ從來ヨリ存スル實務ノ研究ヲ起點トシテ漸次ニ經營ノ根本原理ニ溯ラントスルモノ、如シ。而シテ其究局ノ目的ハ一般經濟學ノ上ニ更ニ私經濟的立場ヨリ商工業ノ經營法ヲ論ズルニアルコトハ伯林ノ商事經營學校教授シエール氏ガ親シク余ニ説明セラレタル所ナリ。伯林ノ商業大學校ハ商業會議所ト密接ナル關係ヲ有シ、會議所ニ蒐集保存セラル、所ノ報告類特ニ諸會社考課狀ノ如キモノヲ自由ニ使用スルノ便アルガ故ニソノ研究上利益スル所甚ダ大ナルベキヲ信ズ。然レドモ獨逸ニ於ケル商事經營ノ研究ハ商業學者ノミノ仕事ニアラズシテ經濟學者モ亦大ニ此方面ニ力ヲ用ヒツ、アリ。蓋シ輓近同國ノ商工業ノ規模頻リニ擴張セラレ、特ニ彼ノ「カルテル」ノ旺盛ナルニ至リテハ最早事業内部ノ經營ヲ知ラズシテ國民經濟ヲ語ルコト能ハザルニ至リシノミナラズ、事業界ソノ者ガ多數ノ大學卒業者ヲ使用スルニ至リタルガ爲メ同國歴史派ノ經濟學者ガ從來大ニ力ヲ盡シ來レル企業ノ研究ハ更ニ

一步ヲ進メテソノ經營法ニモ立入ルコト、ナリシナリ。サレバ此等ノ學者ハ商事經營學トイフ名稱ヲ標榜セザレドモ實質ニ於テハ同ジ問題ニ指ヲ染メ、其研究ノ成績モ亦大ニ見ルベキモノアリトス。

英國ニ於テハ二ノ方面ヨリ商事經營ニ關スル有益ナル研究ヲ生ジタリ。其一ハ會計検査人等ノ研究ナリ。其二ハ商科大學ニ於ケル經濟學者ノ研究ナリ。會計検査人ハ職業上多數事業ノ會計狀態ヲ調査シ、會計ノ組織、營業ノ方針等ニ就テ豐富ナル材料ニ接スルガ故ニ自然此種ノ問題ヲ比較研究スルニ至リタルモノニシテ其研究ノ出發點ハ簿記ナリ。又同國ノ數ヶ所ニ設立サレタル商科大學ニ於テハ商事經營ヲ一ノ學科トスルモノト經濟學、商業事情等ノ學科ノ内ニテ論ズルモノトアリ。パーミンガム大學商科ノ經營者タルアシユレー教授ハ特ニ此種ノ事項ヲ一學科トシテ研究スル方針ヲ取り、自ラ「ビジネス、ポリシー」〔事業經營法〕ト稱スル講義ヲ開ケリ。又同氏ハ昨年六月ノ「エコノミツク、ジャーナル」ニ「經濟學ノ擴張」ト題スル一論文ヲ寄セ、商事經營ノ研究ハ從來ノ經濟學即チ「ポリチカル、エコノミー」〔政治經濟〕ニ對シテ新タニ「ビジネス、エコノミー」〔實業經濟〕ナル一方面ヲ開拓スルモノナリト

イヘリ。同氏ノ研究ノ起點ハ實務又ハ簿記ニアラズシテ經濟學ナリ。新聞雜誌及諸會社ノ營業報告等ニ現ハル、幾多零細ノ事實ヨリ歸納シテ商工業經營ノ原則ヲ發見セント企ツルモノナリ。其内容ハ前述ノ論文中ニ略述セラレ、我國ニテモ既ニ國民經濟雜誌ノ本年一月分ニ伊藤述史氏ノ翻譯セラレタルモノアレバ今此ニ詳述セザレドモ吾人ハアシユレー氏ニ負フ所頗ル大ナルヲ以テ斯學ニ志アル人ハ決シテ此論文ヲ看過セザルベシト信ズ。

米國ニ於テハ軌近十年間ニ於テ商事經營ニ關スル研究ノ大進歩ヲ來シタリ。而シテ其原因ハ勿論實業界ニ於ケル大經營ノ發展ト商科大學ノ擴張トニ歸セザルヲ得ズ。現今ハーバード大學ヲ初メ、ペンシルバニア、ウイスコンシン、シカゴ、カリフォルニアノ諸大學ハ皆商科ヲ設ケ、其重要學科トシテ種々ノ名稱ノ下ニ此種ノ事項ヲ研究セシメツ、アリ今其實例トシテハーバード大學々科表ノ内ヨリ關係科目ヲ抜キ、ソノ要領ヲモ譯出スベシ。

工業組織 (Industrial Organization)

近世工業及其組織ニ關スル原則ヲ明カニスベキ學科ナリ。最初ニ工業ノ歴史

的發展及分業ノ形態ヲ簡單ニ説明シ、工場制ノ生産組織ニ就テ特ニ精細ナル
論究ヲナス。工場ノ位置ヲ決定スル所ノ要件、工場建築物ノ形態ヲ研究シ特ニ
内部組織ノ問題ニ重キヲ置ク。工場各部ノ管理法ヲ論ジ、勞働ノ有效ナル使用
法竝ニ雇主雇人間ノ關係ヲ最モ詳ニス。又工場管理ノ原則ヲ最モ現實的ニ説
明ス。而シテ最後ニ工場組織ニ應用サレタルト同ジ原則ガ他ノ事業ニモ應用
サル、コトヲ知ラシム。

會社ノ財政 (Corporation Finance)

數名ノ學者及實際家左ノ諸問題ニ關シテ講義ス。

一、緒論 企業組織ノ大要

二、會社設立

三、株式賣出

四、資本勘定ノ整理

五、利益金ノ處分

六、會社ノ合併

七、合併ノ種々ノ形態

八、破産

九、會社ノ組織改革

初メニ現代經濟界ニ於ケル株式會社ノ職分ヲ論ジタル後會社事業ノ經過ヲ實際ノ經驗ニ依リテ説明ス。重ナル問題ハ會社設立ノ機會、發起人ノ仕事及其會社トノ關係、各州ニ於ケル設立手續、資金ノ金額及淵源、株式引受人及「シンヂケート」追加資本ノ取得法及借替法、各種株券及債券、利益金計算法、財産ノ償却積立金、配當、鐵道及工業會社合併ノ動機及結果、合併ニ關スル立法、合併ノ形態即チ買收、借入、株券買收、「ホールディング・コムパニー」破産、破産管財人、組織改革

商業ノ組織及方法 (Commercial Organization and Methods)

合衆國ノ内國商業ヲ主トシテ論ズル學科ナリ。特ニ工業家及卸賣商人トシテ仕入及賣出ヲナス爲メニ生ズル所ノ問題ヲ詳論ス。仕入ニ就テハ市場ニ於ケル買入、買付委託、取引所ノ利用等ヲ問題トシ、賣出ニ就テハ工業家ト問屋、卸賣商、小賣商、代理店、注文取代理商トノ關係ヲ問題トナス。外國貿易ニ就テハ輸出

入商ノ職分及之ヲ利用スルノ利害ヲ討究ス。

右ノ三項ハ夫々財務、生産組織及賣買方法ニ關スル主要ノ科目ニシテ尙此他ニ放資論アリ。又銀行、鐵道、保險ニ就テ夫々ノ經營法ヲ論ズル學科アリ。

四 商事經營學ノ問題

商事經營學ノ問題ハ何々ナリヤ。此問ニ對シテ余ハ英獨ノ學界ニ重望アル左ノ三家ノ言ヲ引用スルヲ禁ズルコト能ハズ。

凡ソ大企業ノ主腦タル者ハ其從事スル所ノ事業ノ大局ニ關スル根本問題ノ爲メニ全精力ヲ傾注シ、自己ノ企業ノ内部組織及外部關係ヲ如何ニ改良スベキヤトイフコトニ腐心スルモノナリ。

(マーシャル教授著「經濟原理」)

企業ニハ二種ノ問題アリ。(一)技術的的人的組織、場所要具及勞働ノ調達及其調和
(二)交通的方面、買入及賣出、市場及外部社會トノ關係。

(シユモラー教授著「一般經濟學」)

實業界ニ於ケル最高ノ智能ハ事業ノ組織及資金運轉ノ方法ニ就テ實驗ヲナ

シ發明ヲナスコトニ向テ傾ケラル。而シテ其目的ハ一方ニ於テ生産費ノ大ナル節約ヲナシ、他方ニ於テ市場ヲ支配シテ利得ヲ増進スルコト是ナリ。

(ホブソン氏著、近世資本制ノ進化)

商工業者ガ其營業上ニ於テ逢着スル所ノ問題ハ内部組織及外部關係ノ二ニ分ル。外部關係トハ市場トノ關係ナリ。賣買ニ依テ市價ノ差異ヲ利スルコトナリ。經營ノ大小ニ關係ナク又總テノ種類ノ商工業ニ共通ナル方面ニシテ之ヲ純商業的問題トイフモ可ナリ。之ニ反シテ内部組織ノ問題ハ營利的非營利的ヲ問ハズ總テノ大經營ニ於テ生産費ノ節約ヲ企ツルガ爲メニ發生スル所ノ問題ナリ。更ニ之ヲ細別スル時ハ生産組織ノ問題、勞働組織ノ問題ノ二種ニ區別スルコトヲ得。又之ヲ一括シテ工業的問題トナスモ可ナリ。然リ而シテ現代ノ企業ニハ有形ノ營業上ニ於テ右ノ如キ内外二面ノ問題ヲ生ズル外ニ無形ノ財政上ニ於テ資金運用ノ問題ヲ生ズ。故ニ商事經營ノ諸問題ヲ大別シテ純商業的、工業的、及財政的ノ三部トナスコトヲ得ベシ。余ハ此三部ノ内容ヲ説明センガ爲メニ左ノ一表ヲ製セリ。

(一)外部關係(商業的方面)

一、市價ノ變動及景氣ノ循環(恐慌論及物價統計)

二、賣買ノ組織

(イ)競争ノ場合

各種ノ販路擴張策、損失保險ノ方法等

(ロ)獨占ノ場合

「トラスト」「カルテル」ノ組織及運用

(二)内部組織(工業的方面)

一、生産組織

手工業及家内工業ト工場工業、工業地ノ發達ト工場ノ位置、大小經營ノ得失

分業ト集中、水平的及垂線の合業

二、勞働組織

職工ノ供給及養成、勞働時間及休日、賃錢支拂法、職工ノ保護、企業者ト勞働者

トノ調和

(三)資金運用(財政的方面)

一、金融市場(貨幣論及銀行論)

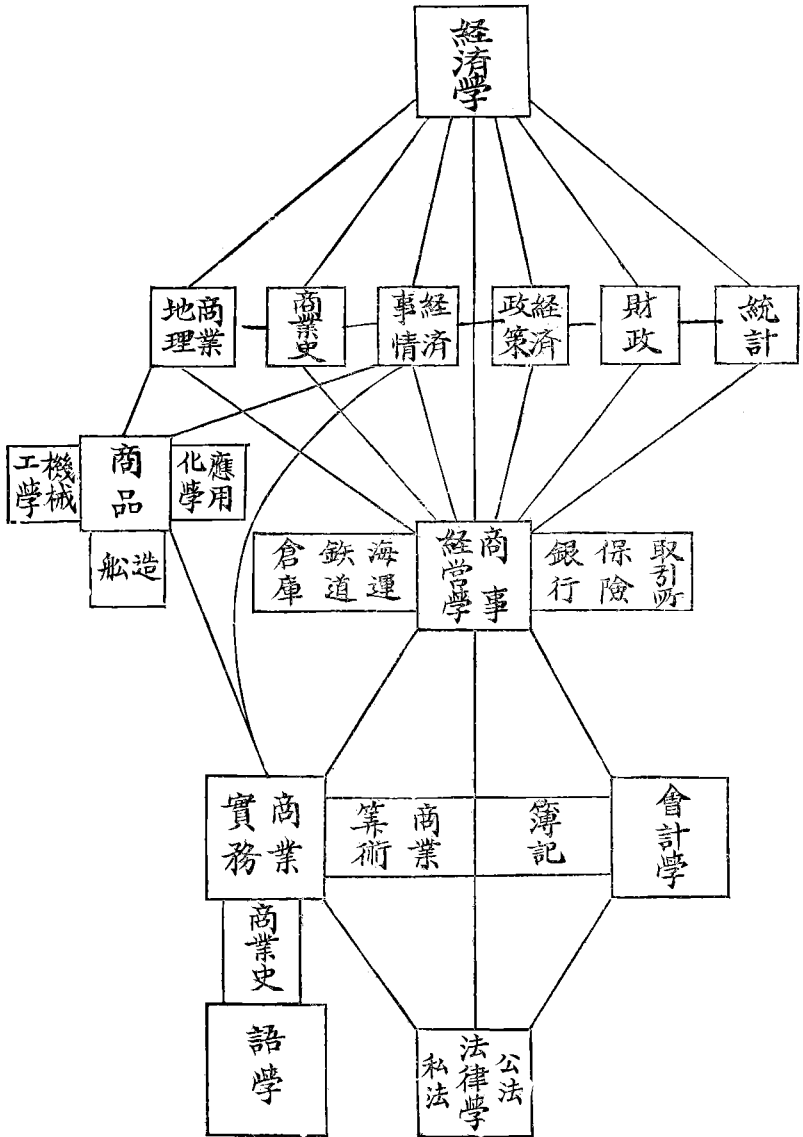
二、資金ノ調達、個人經營、合名會社及合資會社株式會社、會社ノ設立及株式募集、發起人ト株主、新株及社債、各種債券、固定資本ノ償却、準備金、配當、會社合併ノ形式及計算。

此目錄中(一)(二)(三)ハ大體ニ於テ前ニ述ベタルハーバード大學々科表ノ三科目ト符合スルモノナリ。唯(一)ノ「市價ノ變動」ハ恐慌論及物價統計ノ學科ニ屬スベキコトニテ商事經營學ノ中ニハ論ズベカラズ。又(三)ノ「金融市場」ハ同様貨幣論及銀行論ニ屬スベキコトナリ。此等ノ問題ハ商業ニ關スル學科ノ編成上商事經營學ト密接ナル連絡ヲ保タシムルコトヲ要ス。

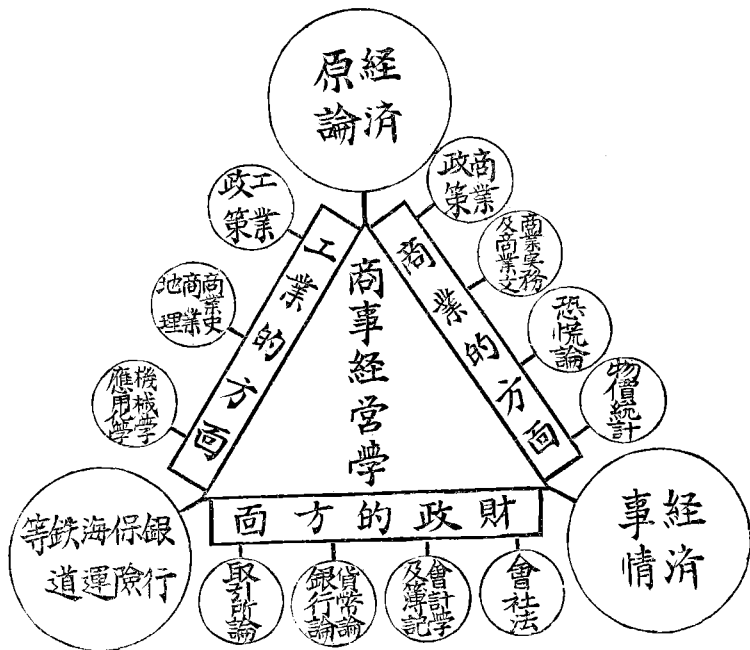
五 商業學科ノ編成

商事經營學ハ高等商業教育ノ爲メニ發生シ、高等商業教育ノ中心的學科タルベキモノナリ。故ニ眞ニ商事經營學ノ目的ヲ達セント欲セバ他ノ商業學科トノ關係ヲ明カニシ、其間ノ連絡ヲ保チ全體トシテ高等商業教育ニ必要ナル智識ト訓練トヲ授クルコトヲ要ス。余ハ此關係ヲ説明スル順序トシテ先左ノ二表ヲ作レリ。

第一圖



第二圖



第一號 (一八)

第一圖ハ商業學科編成ノ大體ヲ示スモノ、第二圖ハ其内ニテ特ニ商事經營學ト他ノ學科トノ關係ヲ示スモノトス。第一圖ニ依レバ商業學科中根本的智識ヲ授クル所ノモノ七種アリ。商事經營學、商業實務、會計學、經濟學、法律學、商品及外國語是ナリ。而シテ銀行、保險、海運鐵道等ノ學科ハ一方ニハ商事經營學及商業實務ノ各論タリト雖モ將來右等ノ業務ニ從事セントスルモノ、爲メニハ最重要ナル中心の學科タルヤ言フ俟

タズ。各學科間ノ連絡ハ線ヲ以テ之ヲ示シタルガ故ニ一々説明セズ。唯特ニ注意スベキハ從來日本ノ學校ニテ完成ノ域ニ達セザル經濟事情ノ一科目ナリ。此學科ハ圖ニ示ス如ク商事經營學、經濟學、商業實務、商品、商業史及商業地理ト其境界ヲ接シ又ハ之ト重複シテ某國某時代又ハ某事業ノ經濟事情ヲ具體的ニ記述スルモノニシテ前掲諸學科ノ教フル所ノモノガ現在如何ニ錯綜シテ行ハレツ、アルカヲ説明スル爲メニ最必要ナリトス。例ヘバ支那貿易事情、日本生絲業事情、日露戰爭前後ノ經濟事情等ノ如キ是ナリ。

次に第二表ヲ説明センニ商事經營學ハ前ニモ述べタル如ク商業的、工業的、財政的ノ三方面ヲ具フルガ故ニ之ヲ表スニ三角形ヲ以テス。而シテ商業的方面ニ於テハ商業政策、實務、恐慌論及物價統計ト關聯シ、工業的財政的方面ニ於テモ夫々小キ圓ヲ以テ示セルガ如キ學科ト關聯ス。又三角形ノ三ノ頂點ニ接シテ表ハシタル三ノ大ナル圓ハ右ノ三方面ノ全體ニ關スル學科ニシテ其中ニモ經濟學ハ理論上商事經營學ノ前驅トナルモノ經濟事情及商業各論ニ屬スル諸科目ハソノ殿軍トナルモノナリ。即チ經濟學ハ現代國民經濟組織ノ「パーツ、アイ、ヴイユ」ヲ與ヘ、經營學

ハ其内ノ企業ヲ内部ヨリ細ク觀察ス。又經濟事情及商業各論ハ經營學ノ教フル所ノ道理ヲ更ニ特殊ノ事物ニ就テ説明スルナリ。

六 商事經營ノ研究法

商事經營學ハ新シキ學科ナリ。其問題ハ大體ニ於テ本論ノ四ニ述べタル如クナレドモ現今ニ於テ此等ノ問題ノ研究ハ甚ダ不完全ナリ。一部ノ事項ニ關シテハ既ニ從來ノ經濟學者ノ手ニ於テ詳細ナル研究ヲ遂ゲタリト雖他ノ大部分ニ關シテハ全然新タナル材料ヲ蒐集分類シテ歸納的ニソノ原則トモイフベキモノヲ發見セザルベカラズ。思フニ從來ノ經濟學者ノ著書論說ニシテ企業、勞働、信用、商業、工業等ニ關スルモノハ主トシテ社會ノ經濟ヲ論ズルモノナレドモ時トシテ議論ノ商事經營ニ及ビタルモノモ亦少カラズ。特ニ近年ニ至リテ企業ノ内部的觀察ヲナスモノ多クナレルコトハ既ニ前ニ述べタルガ如シ。然レドモ此等ノ材料ノミヲ以テ直チニ我新學科ヲ構成スルコト能ハザルヤ論ヲ俟タズ。現ニ海外先進國ノ商業大學ニ於テモ斯學ニ關スル教科書トイフベキモノ殆ド之ナク、大抵ハ教授タル人々が研究シテ而カモ未ダ世ニ發表セザル所ノモノヲ講義スル有様ナリ。而シテ此等

ノ研究ノ材料ハ即チ新聞雜誌諸會社ノ目論見書考課狀營業報告實業家ノ談話等ニ現ハル、所ノ零細ノ事實ニ外ナラズ。此ノ如キ原始的材料ヲ基礎トシタル研究ハ歐米ニモ至テ少ク我邦ニハ絶無ナリトイヒテ不可ナカルベシ。加之元來商事經營學ハ實際商業教育ノ必要上ヨリ生ジタルモノナレバ現在日本ノ實業ニ從事セントスル所ノ日本ノ青年ノ爲メニ最緊要最重大ナル事例ヲ捕ヘザルベカラズ。故ニ日本ト歐米ト經濟上社會上ノ狀態ヲ異ニシ、彼ノ大問題タルモノ必ズシモ我ノ大問題タラザル以上ハ我邦ニハ我邦ノ商事經營學ナカルベカラズ。由來歐米ノ事情ヲ探ルニ急ニシテ眼前ノ要務タル日本ノ現狀ニ精シカラザルハ我邦經濟學界ノ通弊ナレドモ我商事經營學ニ於テハ斷ジテカ、ル缺點ノ存在ヲ許スベカラザル特殊ノ理由アルナリ。之ヲ要スルニ商事經營學ヲ構成センガ爲メニハ一面歐米ニ於ケル斯學研究ノ結果ヲ參照スルト同時ニ他面大ニ零細ナル原始的材料ヲ集メテ我日本ノ現狀ヲ研究セザルベカラズ。是固ヨリ困難ナル事業ナレドモ又頗ル趣味ニ富メルコトナリ。余ハ我國ノ經濟學商業學ニ志アル青年ガ大ニ奮起シテ此創始的研究ニ從事シテ以テアシユレ、教授ノ所謂經濟學ノ擴張ニ指ヲ染メンコ

第七卷 (二二二) 論 說

商事經營學トハ何ゾヤ

第一號

(二二二)

トヲ切望セザルヲ得ズ。